

入選

作文部門

中学生の部

人の努力によって

富士市立富士中学校 三年

後藤 実結子

昨年回覧板に入っていた冊子に、私の知り合いの書道「下水道と環境」が載っていた。力強く素晴らしい作品だった。それでその冊子「たっぷり上下水道情報局」を読んでもみると、私の知らないことが色々載っていた。その中で気になったのが台所トラップ柵だ。その存在を私は全く知らなかったのだ、母に聞いてみると

「家の裏側にあるんだよ。毎年パパが掃除してくれているの知らなかった？今年もそろそろやるからパパを手伝って」と頼まれてしまった。

(余計なことを聞いてしまった)

と後悔しつつも、春堀の日と一緒に掃除してみるとにした。蓋を開けると白い油のような塊が底に浮いていて、嫌な臭いもして、ぞっとしたけれど、父がスコップですくった塊を私がゴミ袋に入れる手伝いをした。でもどうしても細かいものは、スコップから流れ落ちてしまう。それで父が、ビニール手袋をはめた手ですくい始めた。私も気持ちが悪かったけれどすくってみた。塊は壁にくっついていているものもあり、見た目より硬くて近づくともっと酷い臭いがした。だが綺麗になってくると

(こんな汚いものが流れていなくてよかった。) という気持ちにもなった。トラップ柵は下水道に油や固形物が流れ出ないように溜めると説明が載っている。仕組み自体がよごれを流さないという設計は素晴らしいと思った。この掃除を手伝ってから、私は食後お皿を流しに下げるとき、なるべく油や食べ残しが無いよう気をつけるようになった。流れ着いたトラップに溜まるあの塊を思い出すと、少しでも減らし、次回の掃除を楽にしたいと思ったからだ。三角コーナーや流し台、ゴミ受けにも細かい網目状のネットをかけるようにした。環境のサイクルを考えれば、少しでも綺麗な水を排水することが、今度は綺麗な水を私たちが使えるようになることに繋がる。普段、蛇口をひねればおいしい水が出てくる。それが当たり前のように慣れていても、災害が起きると事態は一変する。普段は不自由なく使っている水だが、地震や豪雨が起ると水道が止まって水が使えず、困っているとテレビで見ることが頻繁にある。とはいえ、今までそんなニュースを見ても、私自身水道から水が出なかった経験はなく、知り合いにもいかなかったため、実感がわかなかった。しかし今年の十月。台風十五号により清水区の広範囲で断水となった。私の兄が通っていた高校の付近であったし、母の友達も住んでいる地域なのでとても身近に感じた。友達を心配した母は友達に連絡を取り、復旧するまでこちらに來ないか打診したが、生活の拠点を移すのは難しく仕事もあるため、離れられないとの返答だった。近所の実家にお風呂をもらっている行ったり、水をタンクに積んで何とか生活している

まれている。当たり前のように使ってきたこの水が、多くの人々の努力で生まれてきているということを常に考え、自分に何が出来るか問いながら、大切に使っていきたい。

と聞いた。水が出なくても、そこから離れられないという状況はいつでも起こりうるということを実感した。ここでふと私は、台風で水が沢山あるのに、なぜ断水になったのか疑問に思い調べてみた。すると、記録的な大雨で川の上流から大量の流木が流れて、取水口を塞いだことが原因ということだった。また、取水口に至る道は狭くて不安定なうえに冠水している所もあり、車両が入りづらかったため、重機も入れず復旧に時間がかかってしまった。また、水道管が通る橋が流されたことも原因だった。市のサイトでは詳しく写真付きで復旧までの様子が載っていたが、想像していたよりも大変な作業であつたことが分かった。大木で道路がふさがり徒歩で作業に向かう姿。濁りを解消するためのドレン作業では、配水池に送る途中で再び濁りが発生するので繰り返し行う必要があること。濁りがなくなつて初めて水質検査を行えることも知り、関わる多くの職員の大変な労力によつて、復旧していくことがよく見て取れた。普段の生活の中で洗濯、入浴、食事など人は生きていくうえで水は欠かせない。さらに、私は水泳部に所属しており、たつぷりの水に浸かつて泳いでいる。0歳から始めたこのスイミングで、私は人より多くの水を使つてきたことになる。スイミングスクールの子は二十五メートルプールは六十万リットル、お風呂にすると三千杯にもなる。今は中学生になり、学校のプールは五十メートルだ。当然もつと多くの水が使われている。そして同じ量だけ下水処理をしてもらつてきたことになる。これだけの水の中で気持ちよく泳いでいる私は、とても贅沢で恵